

図画コンクール 阿武隈川上流児童図画コンクール

昨年12月5日、令和3年度阿武隈川上流児童図画コンクール（阿武隈川水系水質汚濁対策連絡協議会主催）の表彰式が福島市のラコパふくしまで開かれ、市内の小中学生6人が表彰されました。

受賞作品は、阿武隈川流域の各市町村で巡回展示を行います。田村市は、2月28日から3月7日まで、船引公民館1階ロビーで展示する予定です。

各部門の受賞者は次のとおり。（敬称略）

【図画部門】

- 福島県河川国道事務所長賞
瀧口心暖さん（滝根小学校2年）※写真：上
- 優秀賞
佐藤あかりさん（要田小学校6年）

【ポスター部門】

- 三春ダム管理所長賞
橋本玲夢さん（芦沢小学校5年）※写真：下
- 優秀賞
大和田真央さん（芦沢小学校5年）
浦山咲鳳さん（船引小学校4年）
郡司晴矢さん（滝根小学校4年）



田村市×ネパール連邦民主共和国 船引中学校でオンライン交流

昨年12月7日、田村市のホストタウンであるネパール連邦民主共和国の東京2020オリンピック陸上女子100mに出場したサラスワティ選手とネパールオリンピック委員会の関係者と田村市をつなぎ、オンライン交流を行いました。

田村市側は船引中学校の3年生122人が参加し、サラスワティ選手や関係者からオリンピックの出場報告を受けた後、生徒たちから、オリンピックに出場した際の様子や、アスリートとしての心構え、ネパールと日本の違いなどを英語で質問し、最後に合唱を披露しました。

田村市とネパールの関係をサポートして下さった一般社団法人アスリートソサエティ代表理事の為末大さんもオンラインで参加し、東京大会の様子やオリンピックを介した異国とのつながりについて伝えてくださいました。

通訳を担った同事務局長の青木崇行さんからは、ご自身の経験を踏まえたネパールと日本のつながり、東京大会の裏話についてお話いただくなどとても有意義な時間となりました。

生徒からは、「ネパールの皆さんがどのような思いをもってオリンピックに参加したかを知ることができた」「オンラインを介して貴重な経験ができた」などの感想があがりました。



障害者週間 市内福祉事業所パネル展示・製品販売

昨年12月1日から17日まで、市役所1階ギャラリーで市内の障害福祉サービス事業所の活動などを紹介するパネルや作品などを展示しました。期間中は手芸アクセサリ、シフォンケーキなどの販売も行いました。

この取り組みは、障害者週間に合わせて実施しており、今後も障害のある方への理解を深めるとともに障害のある方が社会、文化などさまざまな分野で活動する意欲を高めるよう関係機関と力を合わせて取り組みます。



スポーツ少年団 福島県スポーツ少年団功労者表彰を受賞

昨年12月3日、福島県スポーツ少年団表彰式が開かれ、田村市スポーツ少年団本部長の大山正一さん（美山スポーツ少年団団長）が功労者として受賞しました。

この賞は、長年にわたりスポーツ少年団の指導・育成に貢献し、スポーツの普及と向上に努められた功績をたたえられた方に贈られます。



伝統文化 親子で正月飾り作り・もちつきを楽しむ

昨年12月4日、市歴史民俗資料館で「正月飾り作り・もちつき」が開かれ、親子連れなど約20人が参加しました。

参加者は、歴史民族資料館の紺野善之さんの指導で、わらを使った正月飾り作り（しめ縄作り）に挑戦しました。

また、昔ながらの杵と臼を使ったもちつきの体験も行われ、親子で日本の伝統文化に親しみました。



退任式 地域おこし協力隊の菅原有記さんが任期満了で退任

田村市起業型地域おこし協力隊の菅原有記さんが任期満了を迎え、昨年12月7日に退任式が行われました。東京で広告業界やマーケティング業界で活躍されていた菅原さんは、3年前に田村市に移住してから、着物を活用したオリジナル洋服ブランド事業やライター育成に尽力してきました。今後は市内に定住し、若者が自由にスタイリッシュに着物を着こなす新たな文化の創出にむけ、リユース着物ブランドを開発します。市長から感謝状を贈呈し、今までの活動を労うとともに、エールを送りました。

